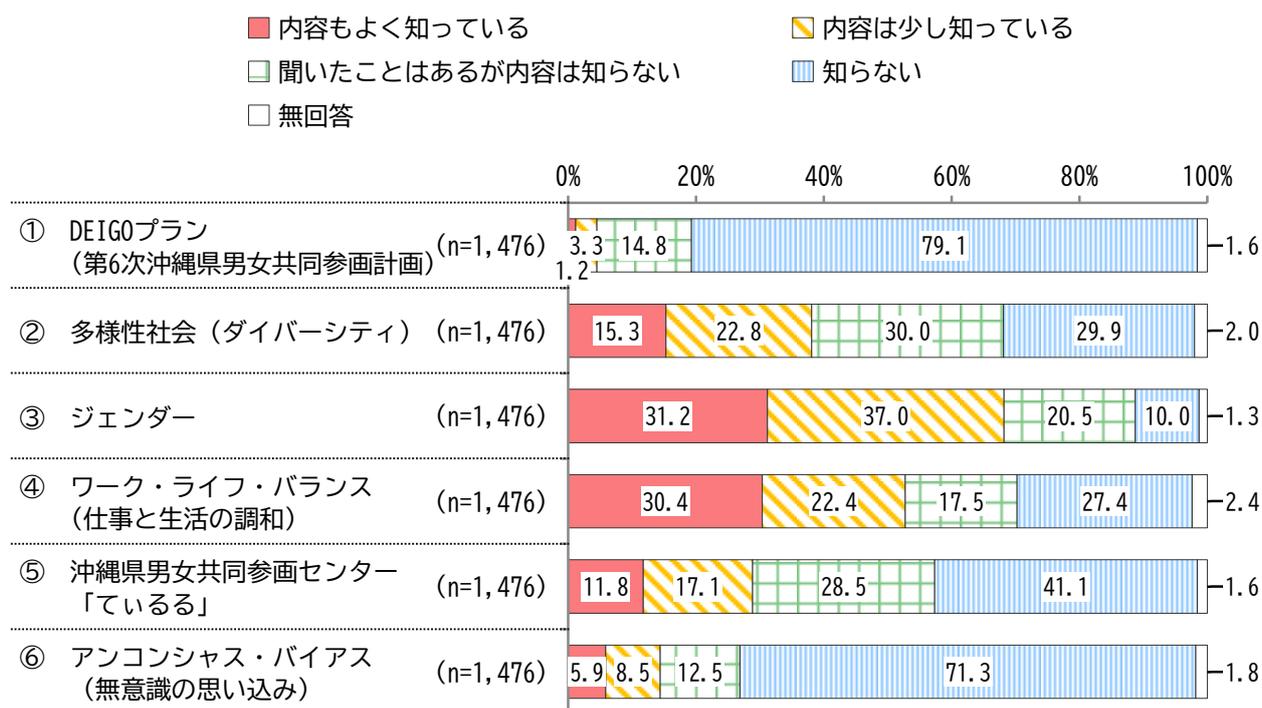


8. 男女共同参画行政について

(1) 男女共同参画に関する言葉の認知度 ……………

問 29 次にあげる①～⑥の言葉を、あなたはどのくらい知っているかお答えください。
(○はそれぞれに1つ)

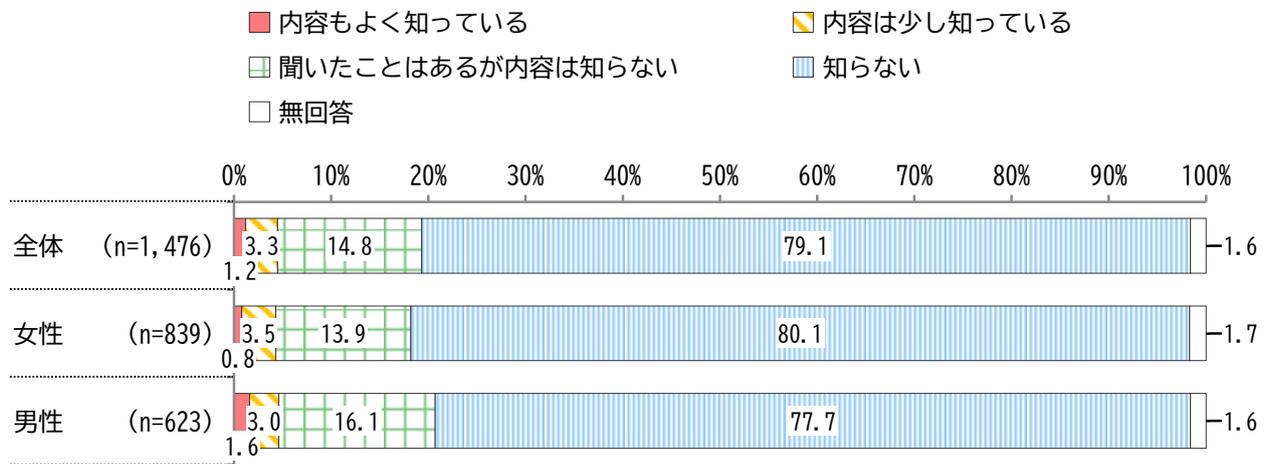
- 全体でみると、「内容もよく知っている」の割合が最も高いのは【③ジェンダー】で31.2%となっている。次に【④ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）】が30.4%、【②多様性社会（ダイバーシティ）】が15.3%となっている。「内容は少し知っている」の割合が最も高いのは【③ジェンダー】で37.0%となっている。続いて【②多様性社会（ダイバーシティ）】が22.8%、【④ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）】が22.4%となっている。「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が最も高いのは【②多様性社会（ダイバーシティ）】が30.0%となっている。次に、【⑤沖縄県男女共同参画センター『ているる』】で28.5%、【③ジェンダー】が20.5%となっている。「知らない」の割合が最も高いのは【①DEIGOプラン】で79.1%となっている。続いて【⑥アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）】が71.3%、【⑤沖縄県男女共同参画センター『ているる』】が41.1%となっている。



① DEIGO プラン（第6次沖縄県男女共同参画計画）

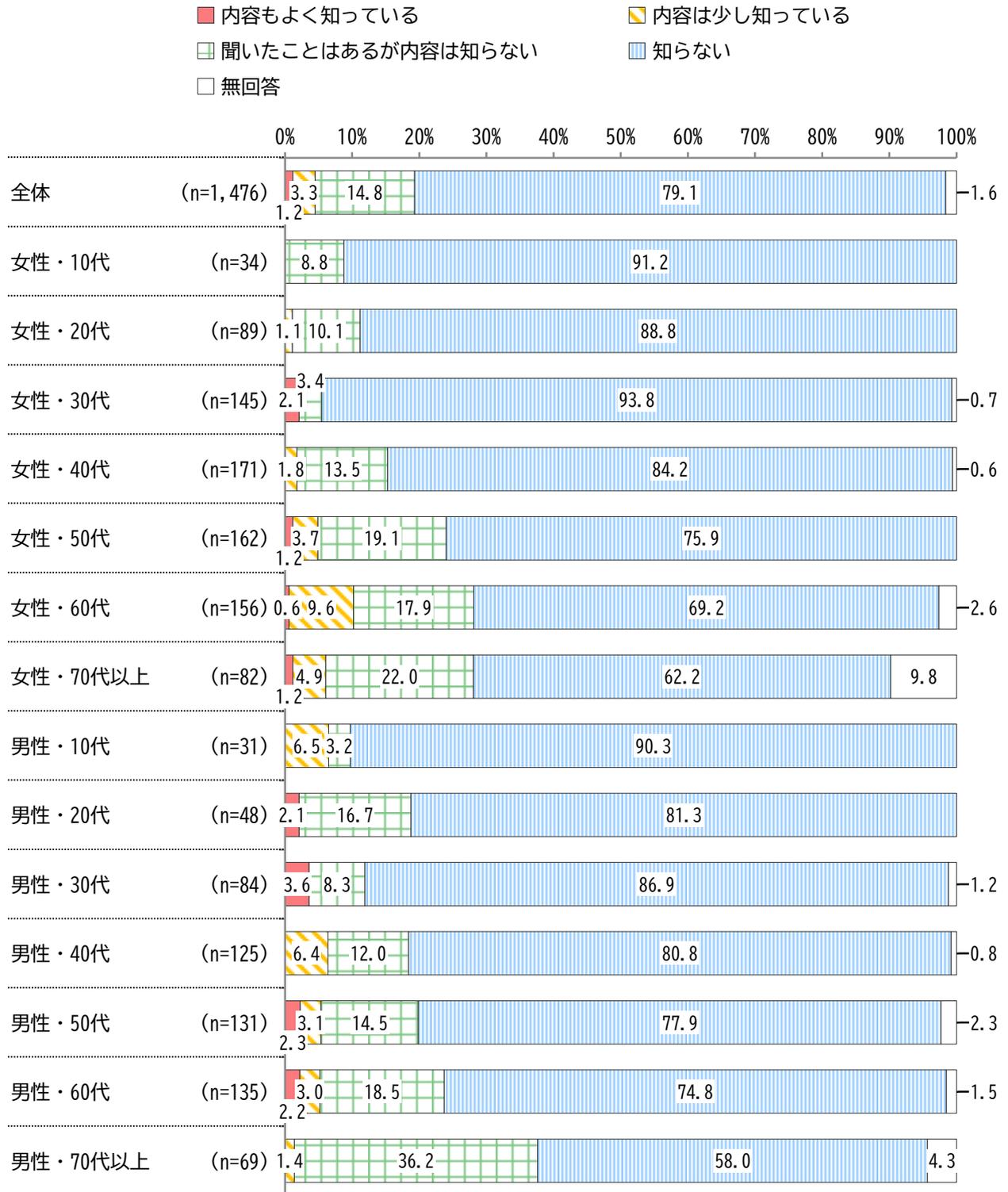
【性別比較】

- 性別で見ると、女性では「知らない」が80.1%で男性の77.7%よりも高い。男性では「聞いたことはあるが内容は知らない」が16.1%で女性の13.9%よりも高い。



【性・年代別比較】

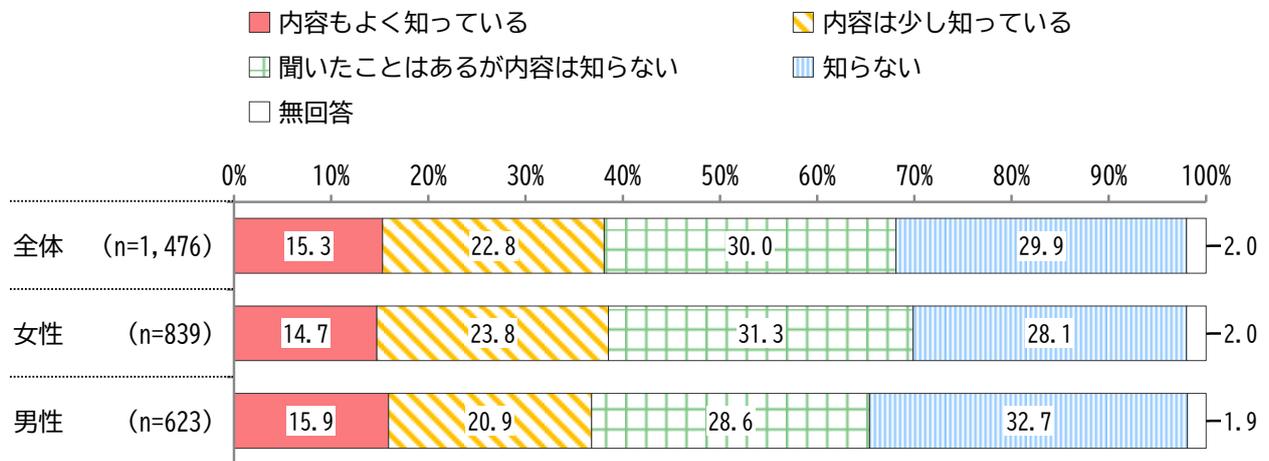
- 性・年代別でみると、「知らない」が最も高く、女性・10代（91.2%）、女性・20代（88.8%）、男性・10代（90.3%）など、多くの年代で8～9割台となっている。「聞いたことはあるが内容は知らない」は男性・70代以上（36.2%）が特に高く、他の年代より認知の段階で止まっている層が多い。「内容は少し知っている」は女性・60代（9.6%）が比較的高いものの全体的に低い。「内容もよく知っている」はどの年代も数%にとどまっている。



② 多様性社会（ダイバーシティ）

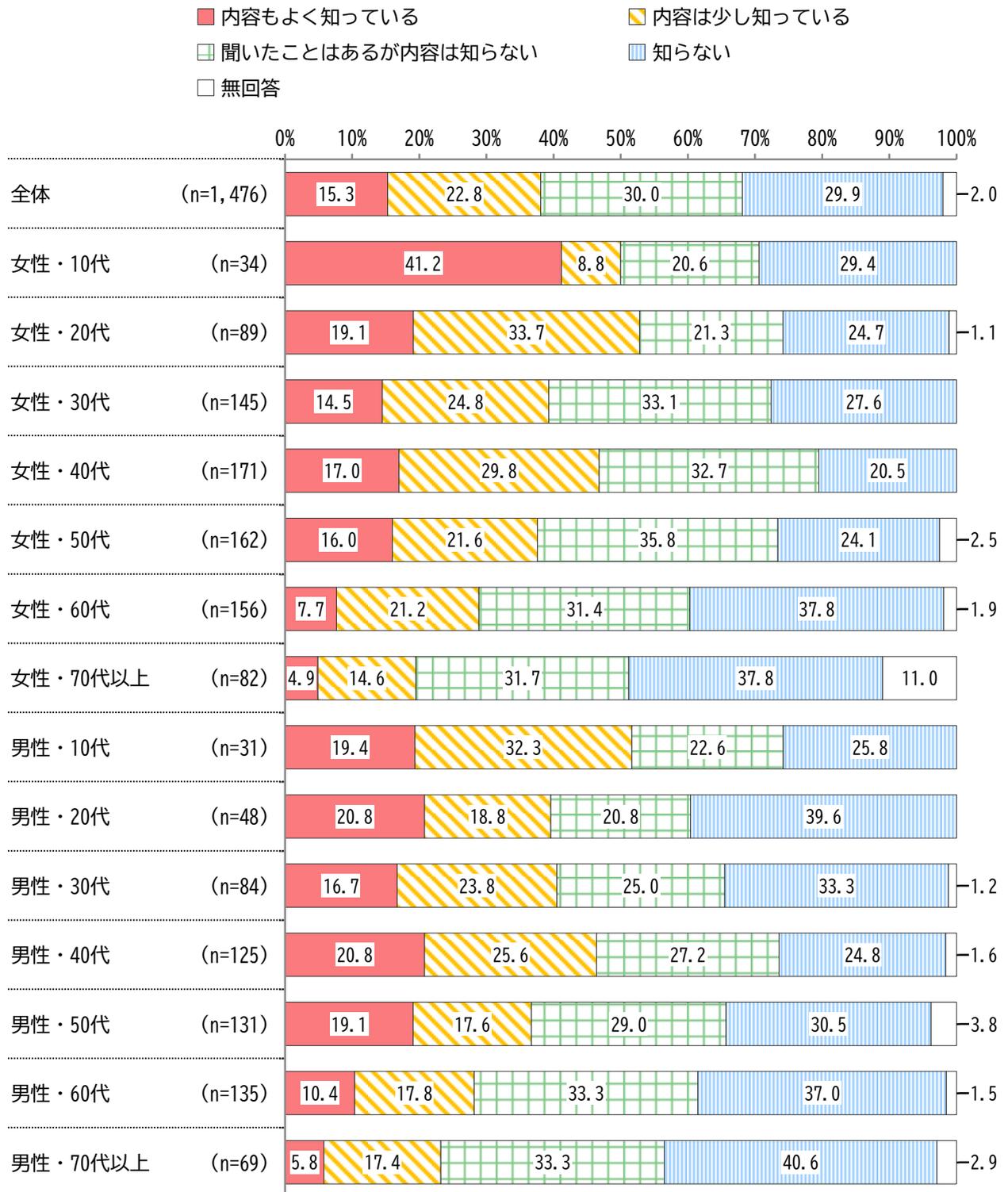
【性別比較】

- 性別でみると、女性では「聞いたことはあるが内容は知らない」が31.3%で男性の28.6%よりも高い。男性では「知らない」が32.7%で女性の28.1%よりも高い。



【性・年代別比較】

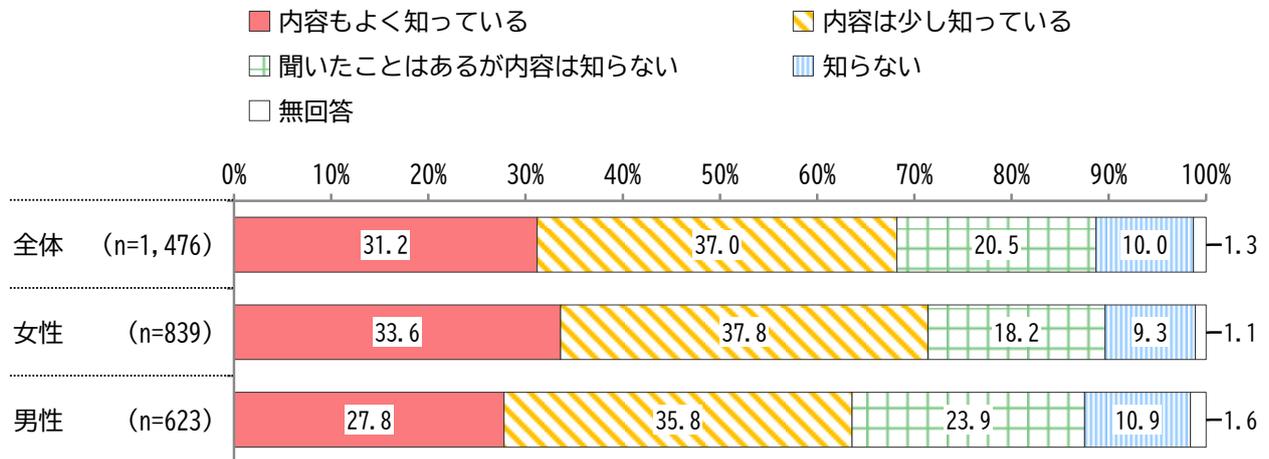
- 性・年代別でみると、「知らない」は男性・20代（39.6%）や男性・70代以上（40.6%）、女性・60代（37.8%）、女性・70代以上（37.8%）などで特に高く、年代により差がみられる。「聞いたことはあるが内容は知らない」は女性・50代（35.8%）、男性・60代（33.3%）、男性・70代以上（33.3%）などで高い。「内容は少し知っている」は女性・20代（33.7%）、女性・40代（29.8%）が高い。「内容もよく知っている」は女性・10代（41.2%）が最も高い。



③ ジェンダー

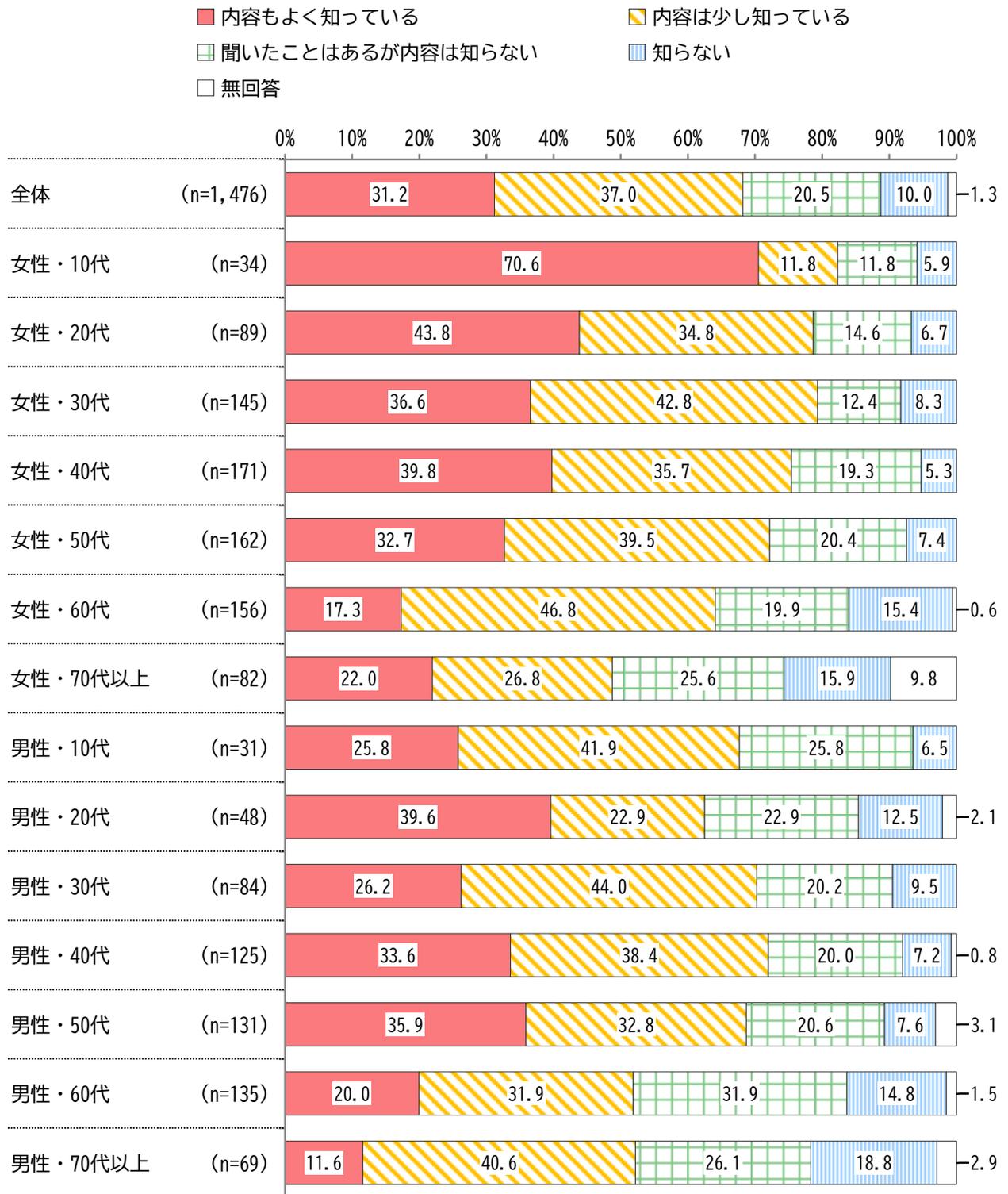
【性別比較】

- 性別で見ると、女性では「内容は少し知っている」が37.8%で最も高く、「内容もよく知っている」が33.6%となっている。男性では「内容は少し知っている」が35.8%で、「内容もよく知っている」が27.8%となっている。



【性・年代別比較】

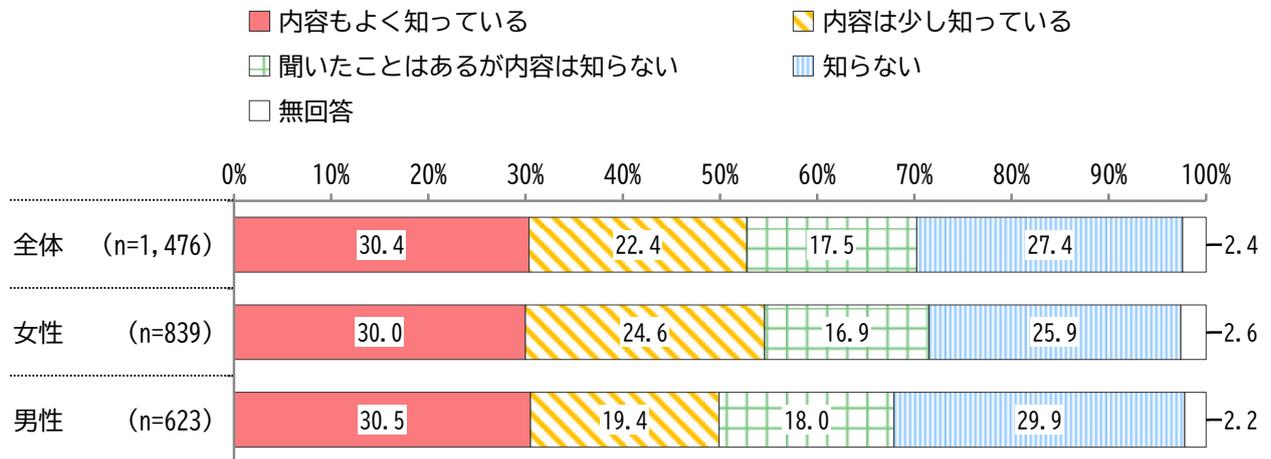
- 性・年代別でみると、「内容もよく知っている」は女性・10代（70.6%）が最も高く、女性・20代（43.8%）、女性・40代（39.8%）が続く。「内容は少し知っている」は女性・60代（46.8%）が最も高く、男性・30代（44.0%）、女性・30代（42.8%）が続く。「聞いたことはあるが内容は知らない」は男性・60代（31.9%）と男性・70代以上（26.1%）が高い。「知らない」は男性・70代以上（18.8%）、女性・70代以上（15.9%）と女性・60代（15.4%）が高い。



④ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

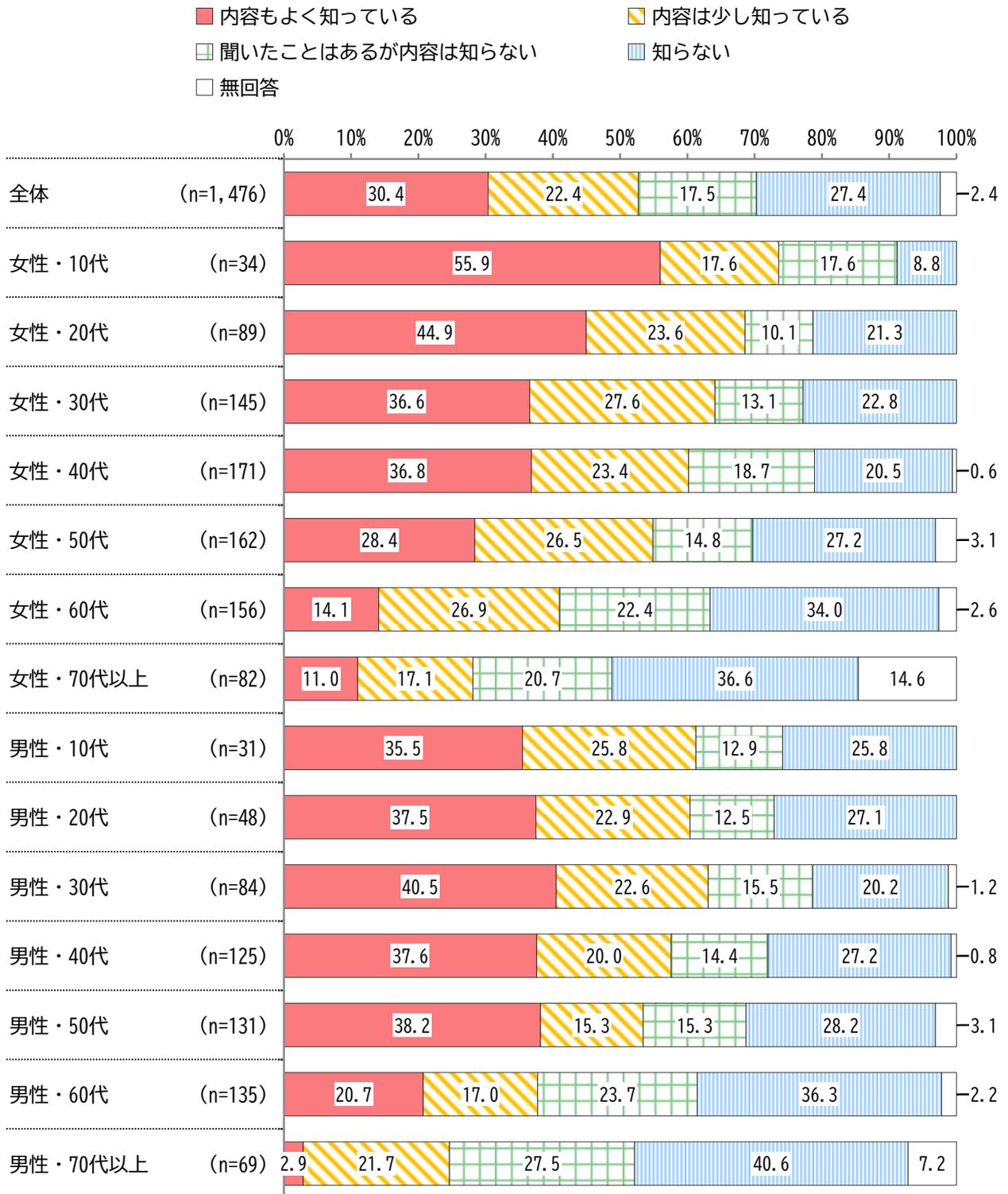
【性代別比較】

- 性別で見ると、女性では「内容もよく知っている」が30.0%で最も高く、「内容は少し知っている」が24.6%となっている。男性では「内容もよく知っている」が30.5%となり、「内容は少し知っている」が19.4%となっている。



【性・年代別比較】

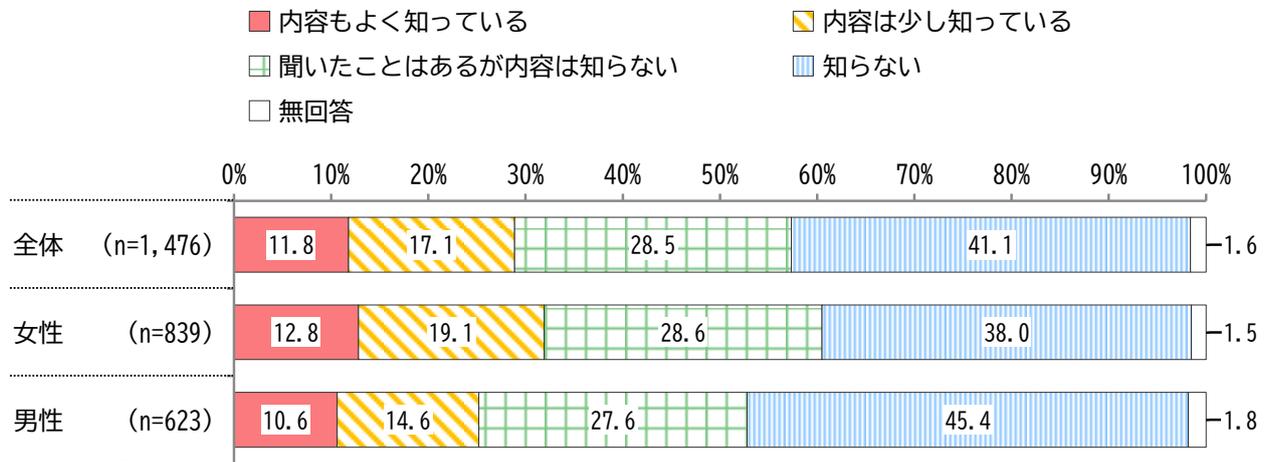
- 性・年代別でみると、「内容もよく知っている」は女性・10代（55.9%）が最も高く、女性・20代（44.9%）が続く。「内容は少し知っている」は女性・60代（26.9%）と女性・50代（26.5%）が高い。「聞いたことはあるが内容は知らない」は男性・70代以上（27.5%）が最も高い。「知らない」は男性・70代以上（40.6%）が最も高く、女性・70代以上（36.6%）が続いている。



⑤ 沖縄県男女共同参画センター「ているる」

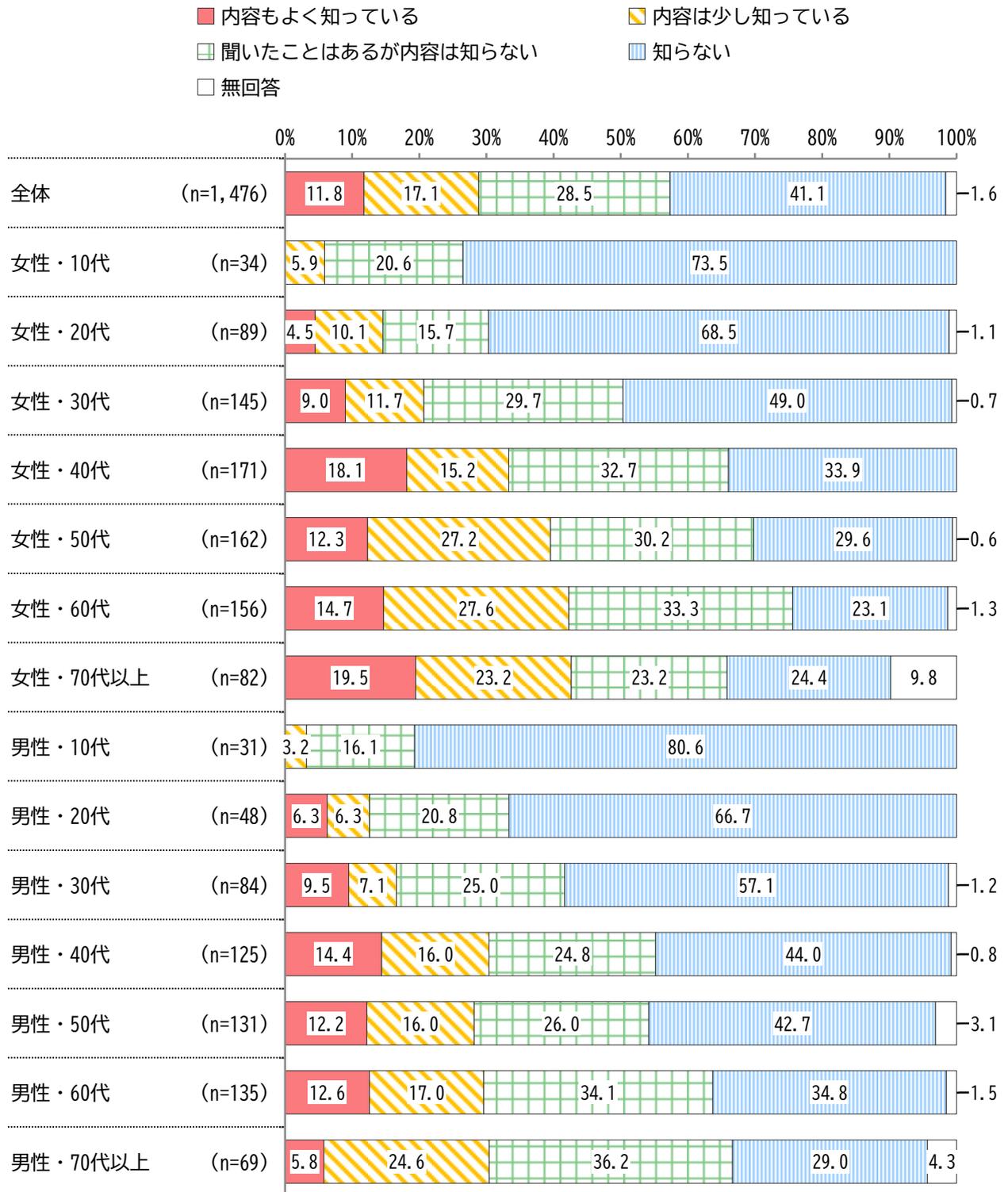
【性別比較】

- 性別で見ると、女性では「知らない」が38.0%で最も高く、「聞いたことはあるが内容は知らない」が28.6%となっている。男性では「知らない」が45.4%となり、「聞いたことはあるが内容は知らない」が27.6%となっている。



【性・年代別比較】

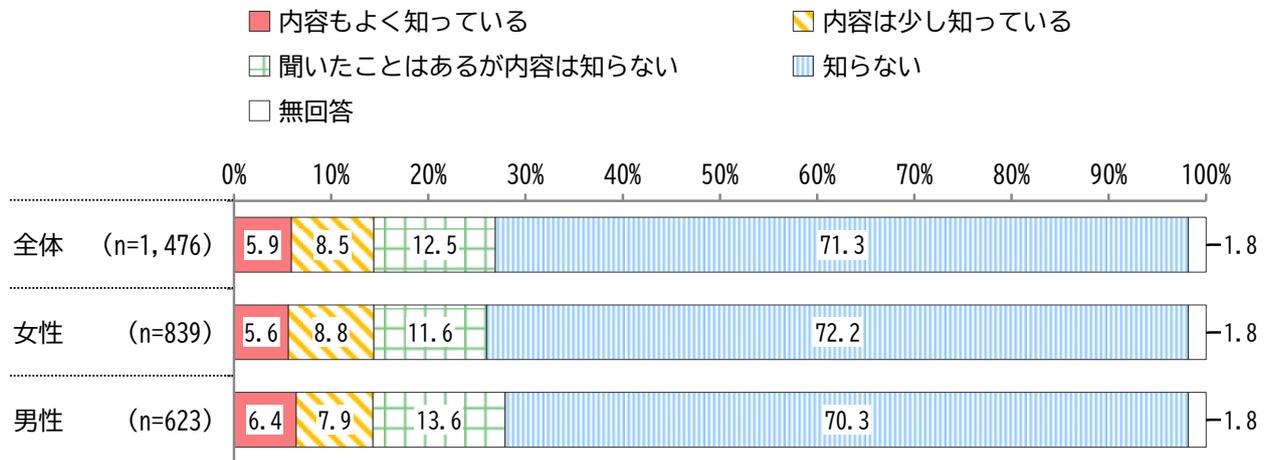
- 性・年代別でみると、女性は「知らない」が10代(73.5%)と20代(68.5%)で特に高く、30代(49.0%)も半数近い。「聞いたことはあるが内容は知らない」は60代(33.3%)と40代(32.7%)が比較的高い。男性は「知らない」が10代(80.6%)と20代(66.7%)で高く、30代(57.1%)も目立っている。



⑥ アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）

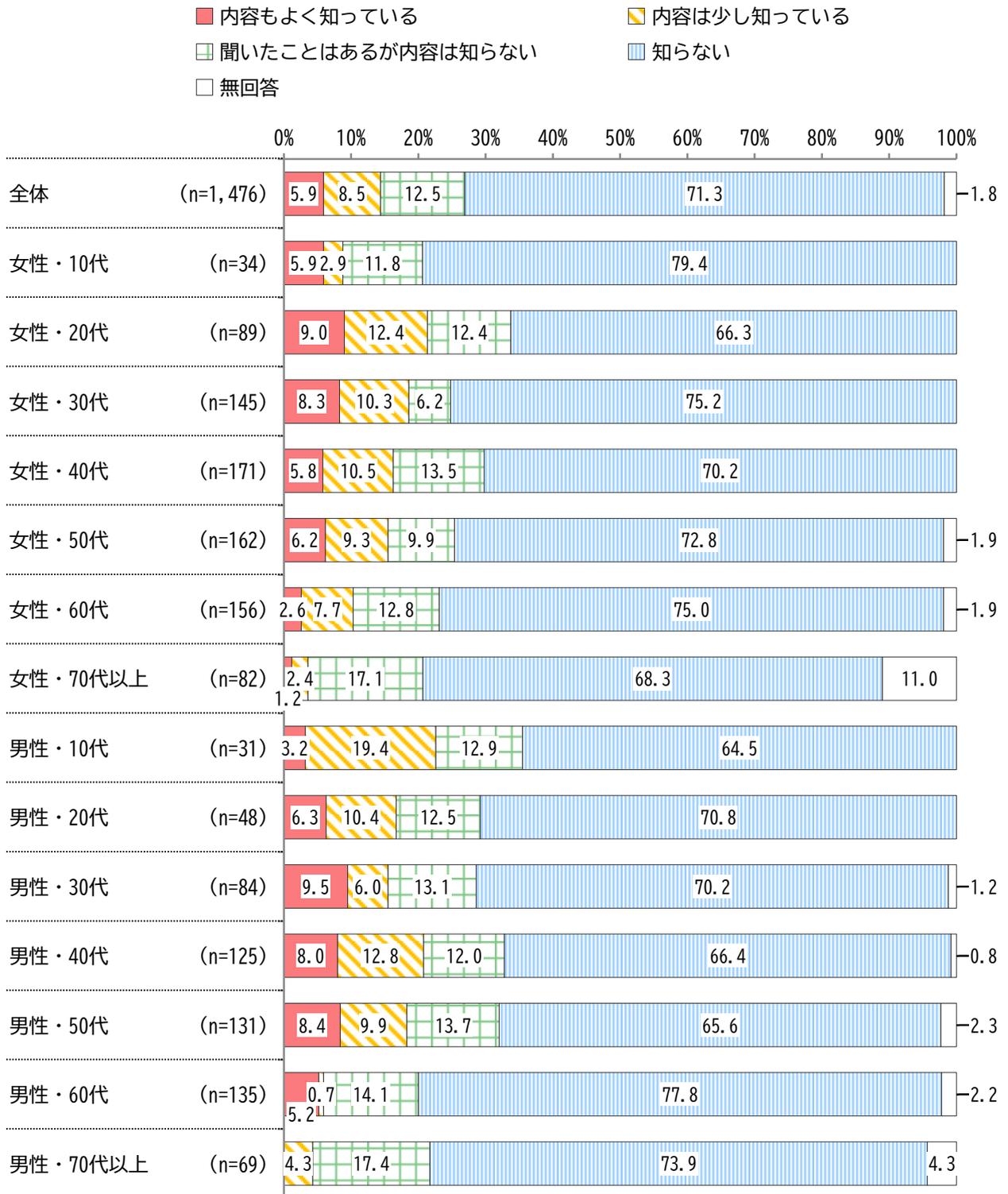
【性別比較】

- 性別で見ると、女性では「知らない」が72.2%で最も高く、「聞いたことはあるが内容は知らない」が11.6%となっている。男性では「知らない」が70.3%となり、「聞いたことはあるが内容は知らない」が13.6%となっている。



【性・年代別比較】

- 性・年代別でみると、女性は「知らない」が各年代で最も高く、10代(79.4%)、30代(75.2%)、60代(75.0%)などで多い。「聞いたことはあるが内容は知らない」は70代以上(17.1%)が比較的高い。男性も「知らない」が各年代で最も高く、60代(77.8%)、70代以上(73.9%)などで多く、年代を問わず理解度の低さが目立つ。



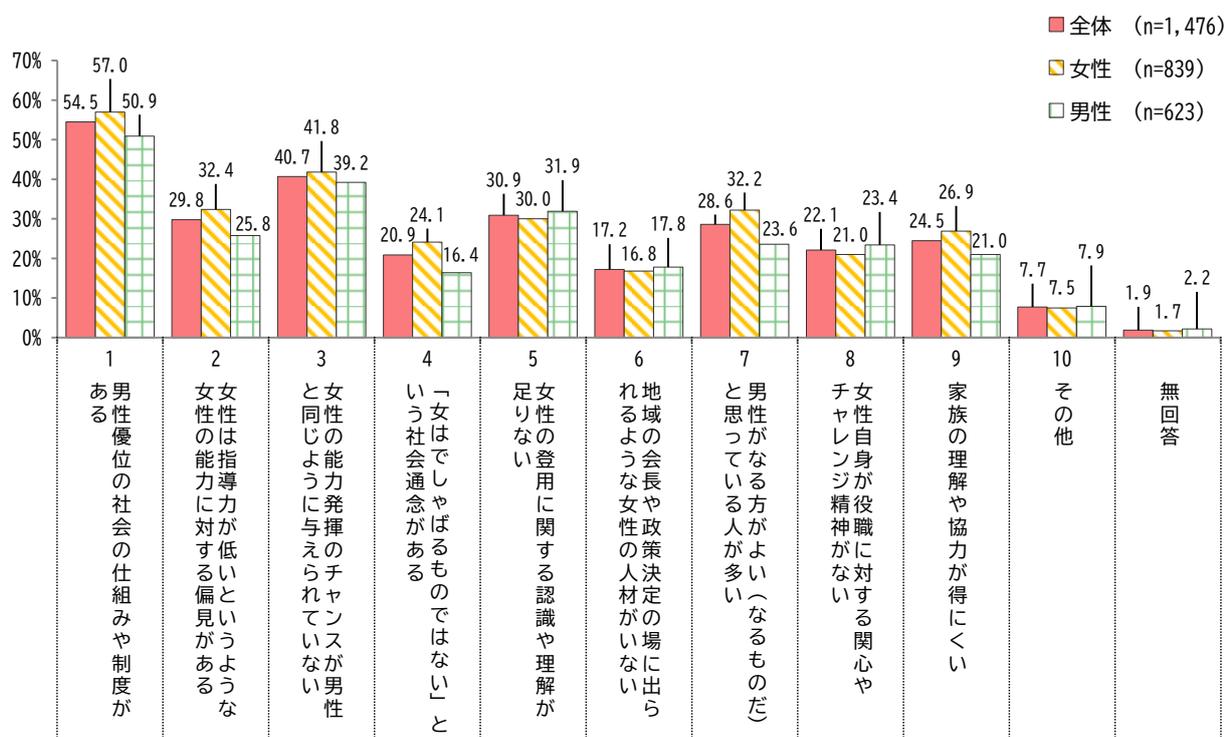
(2) 自治体の首長や議員、企業の管理職に女性の参画が少ない理由 ……………

問 30 女性の社会進出は進みつつありますが、自治体の首長（知事や市町村長）や議員、企業の管理職などはまだ女性が少ないのが現状です。このように女性の参画が少ない理由は何だと思えますか。（○はいくつでも）

- 全体では、「1.男性優位の社会の仕組みや制度がある」が54.5%で最も高く、次いで「3.女性の能力発揮のチャンスが男性と同じように与えられていない」が40.7%、「5.女性の登用に関する認識や理解が足りない」が30.9%となっている。

【性別比較】

- 性別でみると、女性では「1.男性優位の社会の仕組みや制度がある」が57.0%で最も高く、「3.女性の能力発揮のチャンスが男性と同じように与えられていない」が41.8%となっている。男性では「1.男性優位の社会の仕組みや制度がある」が50.9%となり、「3.女性の能力発揮のチャンスが男性と同じように与えられていない」が39.2%となっている。



【年代別比較】

- 全ての年代で「1.男性優位の社会の仕組みや制度がある」が最も高く、30代から70代以上では、次いで「3.女性の能力発揮のチャンスが男性と同じように与えられていない」が高い。

(%)

		n	1. 男性優位の社会の仕組みや制度がある	2. 女性は指導力が低いというような女性の能力に対する偏見がある	3. 女性の能力発揮のチャンスが男性と同じように与えられていない	4. 「女はでしゃばるものではない」という社会通念がある	5. 女性の登用に関する認識や理解が足りない	6. 地域の会長や政策決定の場に出られるような女性の人材が少ない	7. 男性の方がよい(なるものだ)と思っている人が多い
全体		1,476	54.5	29.8	40.7	20.9	30.9	17.2	28.6
年代	10代	68	39.7	38.2	25.0	16.2	20.6	13.2	27.9
	20代	138	40.6	34.1	29.7	23.9	21.0	18.8	35.5
	30代	230	53.0	29.1	41.3	20.9	22.6	16.5	29.6
	40代	298	55.7	25.8	39.6	21.1	26.8	18.5	27.5
	50代	298	57.0	30.5	44.0	21.8	33.2	17.8	28.5
	60代	292	60.3	31.8	41.8	17.5	41.4	15.1	26.7
	70代以上	152	57.9	25.7	50.0	25.0	40.1	19.1	27.0
		n	8. 女性自身が役職に対する関心やチャレンジ精神がない	9. 家族の理解や協力が得にくい	10. その他	無回答			
全体		1,476	22.1	24.5	7.7	1.9			
年代	10代	68	16.2	8.8	5.9	2.9			
	20代	138	23.9	18.1	10.9	-			
	30代	230	14.8	26.5	13.5	2.6			
	40代	298	20.5	26.8	9.4	1.7			
	50代	298	23.8	23.2	5.7	1.3			
	60代	292	24.0	28.1	4.5	1.4			
	70代以上	152	30.3	25.0	3.3	4.6			

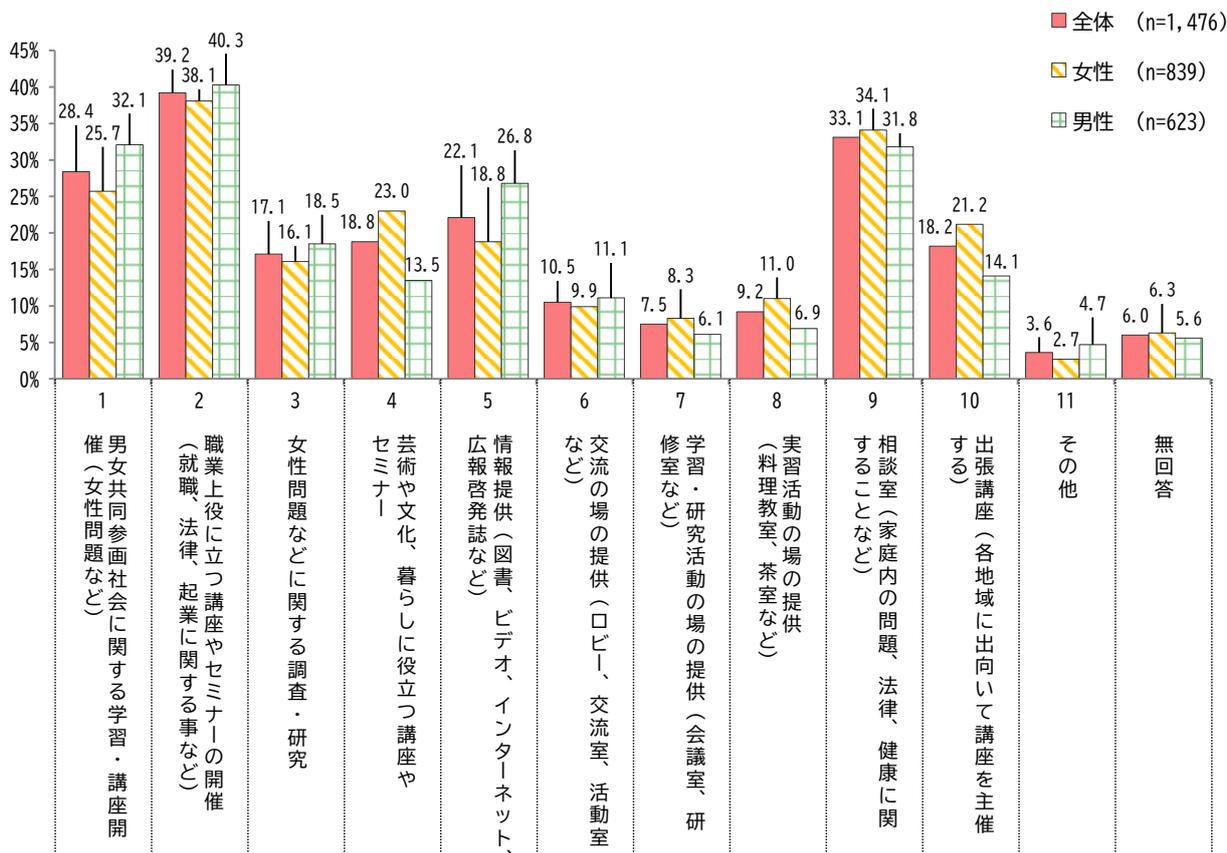
(3) 沖縄県男女共同参画センター「ているる」で拡充してほしい事業 ……………

問 31 沖縄県男女共同参画センター「ているる」では、男女共同参画社会づくりを目指した様々な事業を実施していますが、今後、拡充してほしい事業は何ですか。(〇は3つまで)

- 全体では、「2.職業上役に立つ講座やセミナーの開催(就職、法律、起業に関する事など)」が39.2%で最も高く、次いで「9.相談室(家庭内の問題、法律、健康に関する事など)」が33.1%、「1.男女共同参画社会に関する学習・講座開催(女性問題など)」が28.4%となっている。

【性別比較】

- 性別で見ると、女性では「2.職業上役に立つ講座やセミナーの開催(就職、法律、起業に関する事など)」が38.1%で最も高く、「9.相談室(家庭内の問題、法律、健康に関する事など)」が34.1%となっている。男性では「2.職業上役に立つ講座やセミナーの開催(就職、法律、起業に関する事など)」が40.3%となり、「1.男女共同参画社会に関する学習・講座開催(女性問題など)」が32.1%となっている。



【年代別比較】

- 年代別でみると、「2.職業上役に立つ講座やセミナーの開催（就職、法律、起業に関する事など）」は30代（43.9%）、40代（42.3%）、50代（40.6%）で高い。「9.相談室（家庭内の問題、法律、健康に関する事など）」は50代（35.9%）、60代（38.0%）、70代以上（35.5%）で高い。「1.男女共同参画社会に関する学習・講座開催（女性問題など）」は60代（32.2%）がやや高い値となっている。

(%)

		n	1. 男女共同参画社会に関する学習・講座開催（女性問題など）	2. 職業上役に立つ講座やセミナーの開催（就職、法律、起業に関する事など）	3. 女性問題などに関する調査・研究	4. 芸術や文化、暮らしに役立つ講座やセミナー	5. 情報提供（図書、ビデオ、インターネット、広報啓発誌など）	6. 交流の場の提供（ロビー、交流室、活動室など）	7. 学習・研究活動の場の提供（会議室、研修室など）
全体		1,476	28.4	39.2	17.1	18.8	22.1	10.5	7.5
年代	10代	68	27.9	32.4	17.6	8.8	29.4	7.4	11.8
	20代	138	23.2	31.9	21.7	14.5	22.5	12.3	9.4
	30代	230	24.8	43.9	18.3	16.1	19.1	11.7	7.0
	40代	298	28.9	42.3	16.4	20.1	20.1	11.1	10.1
	50代	298	29.2	40.6	18.1	19.5	22.1	7.7	5.4
	60代	292	32.2	37.7	15.4	19.9	27.1	10.3	5.5
	70代以上	152	28.9	35.5	13.2	25.7	17.1	13.2	7.2
		n	8. 実習活動の場の提供（料理教室、茶室など）	9. 相談室（家庭内の問題、法律、健康に関する事など）	10. 出張講座（各地域に出向いて講座を主催する）	11. その他	無回答		
全体		1,476	9.2	33.1	18.2	3.6	6.0		
年代	10代	68	11.8	26.5	16.2	-	2.9		
	20代	138	9.4	31.2	12.3	5.8	2.9		
	30代	230	11.3	30.0	15.2	6.1	5.2		
	40代	298	11.1	29.2	17.8	3.4	5.4		
	50代	298	6.7	35.9	17.8	2.3	6.0		
	60代	292	7.2	38.0	21.2	2.4	6.8		
	70代以上	152	9.9	35.5	24.3	4.6	11.2		

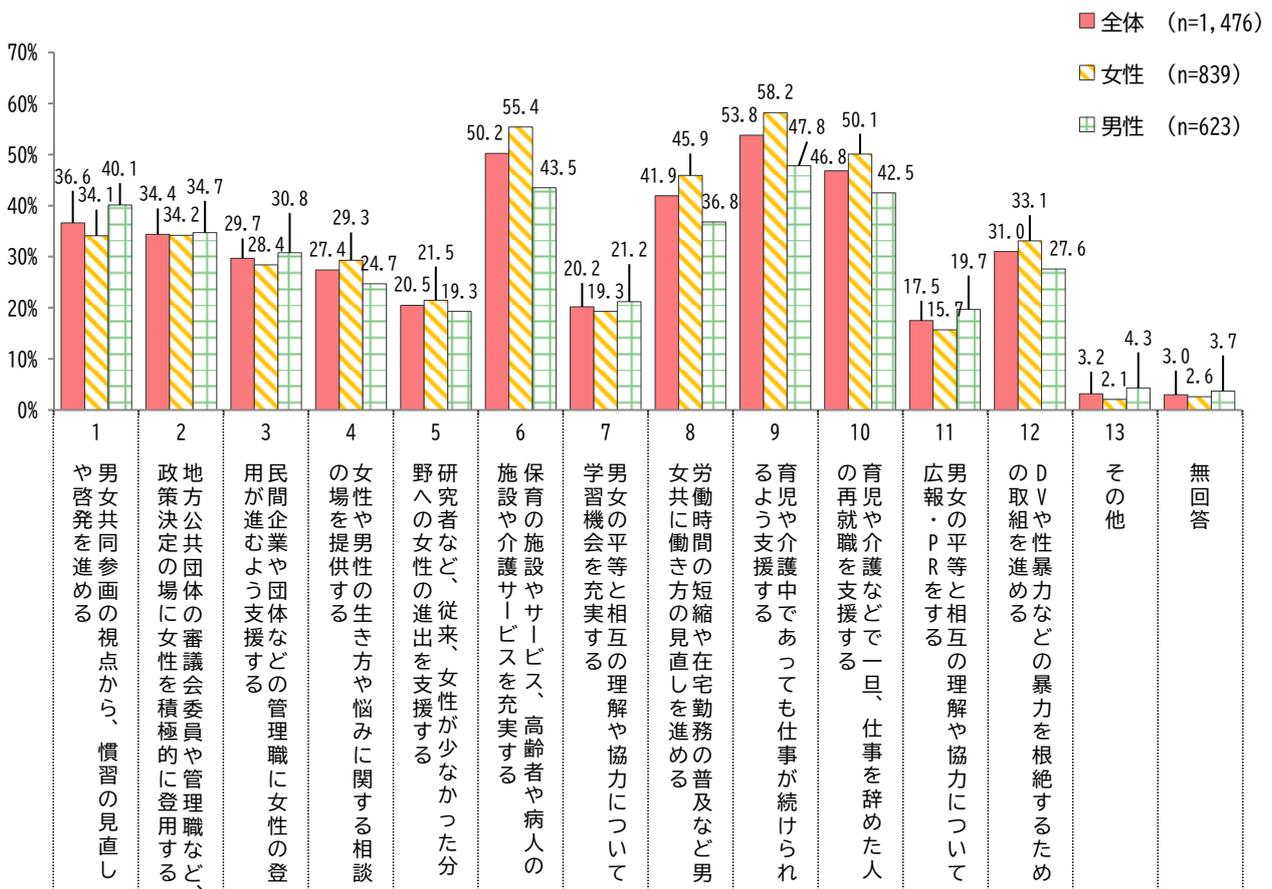
(4) 男女共同参画社会の実現のために行政が推進すべきこと

問 32 男女共同参画社会の実現を目指して、今後、県や市町村はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

- 全体では、「9.育児や介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」が53.8%で最も高く、次いで「6.保育の施設やサービス、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」が50.2%となっている。

【性別比較】

- 性別で見ると、女性は「9.育児や介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」が58.2%で最も高く、「6.保育の施設やサービス、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」が55.4%となっている。男性は「9.育児や介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」が47.8%で最も高く、「6.保育の施設やサービス、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」が43.5%となっている。



【年代別比較】

- 年代別でみると、「9.育児や介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」は10代(35.3%)から70代以上(50.7%)まで幅広い年代で高く、特に30代(57.4%)、50代(57.4%)が突出している。「6.保育の施設やサービス、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」も60代(57.5%)、70代以上(55.9%)で高く、中高年層のニーズが強い。各年代で生活支援と就労継続に関する要望が際立つ。

(%)

		n	1. 男女共同参画の視点から、慣習の見直しや啓発を進める	2. 地方公共団体の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する	3. 民間企業や団体などの管理職に女性の登用が進むよう支援する	4. 女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する	5. 研究者など、従来、女性が少なかった分野への女性の進出を支援する	6. 保育の施設やサービス、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する	7. 男女の平等と相互の理解や協力について学習機会を充実する
全体		1,476	36.6	34.4	29.7	27.4	20.5	50.2	20.2
年代	10代	68	32.4	22.1	26.5	32.4	17.6	32.4	22.1
	20代	138	21.7	20.3	16.7	26.8	14.5	44.2	21.7
	30代	230	33.9	29.1	28.3	34.3	18.7	51.7	21.7
	40代	298	38.3	36.6	27.9	32.9	22.5	44.0	20.8
	50代	298	39.9	32.6	27.5	23.5	18.8	52.0	19.8
	60代	292	41.1	41.4	36.0	24.3	24.3	57.5	18.5
	70代以上	152	37.5	46.7	40.8	18.4	22.4	55.9	18.4
		n	8. 労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める	9. 育児や介護中であっても仕事が続けられるよう支援する	10. 育児や介護などで一旦、仕事を辞めた人の再就職を支援する	11. 男女の平等と相互の理解や協力について広報・PRをする	12. DVや性暴力などの暴力を根絶するための取組を進める	13. その他	無回答
全体		1,476	41.9	53.8	46.8	17.5	31.0	3.2	3.0
年代	10代	68	25.0	35.3	30.9	13.2	29.4	2.9	1.5
	20代	138	37.7	50.7	43.5	16.7	26.1	2.9	0.7
	30代	230	50.0	57.4	48.7	16.5	32.2	6.1	3.5
	40代	298	46.6	55.0	44.6	16.1	30.5	4.4	2.3
	50代	298	40.9	57.4	46.6	18.1	36.6	2.0	2.7
	60代	292	41.8	53.4	51.7	18.5	29.1	1.4	3.1
	70代以上	152	34.2	50.7	49.3	21.1	27.6	2.6	7.2

(5) 分析・考察

男女共同参画に関連するキーワードとして最も良く知られているのは、「ジェンダー」と「ワーク・ライフ・バランス」であり、「内容もよく知っている」と回答した人の割合はそれぞれ31.2%と30.4%で全体の3割を占め、「ジェンダー」については、前回調査の16.9%から約2倍、また「ワーク・ライフ・バランス」については19.0%から1.6倍の増加となり、認知度が増加していることが明らかとなった。「ジェンダー」については特に10代の女性で70%、20代の女性で43.8%となり若年層の女性で認知度が非常に高いことが分かった。これは学校教育、SNSやマスコミの影響が大きいと考える。一方で、同世代の男性を見ると、10代で25.8%、20代で39.6%と女性よりも低く、女性の方がより自分事として理解する人が多いことがうかがえる。「ジェンダー」について、「内容は少し知っている」が37.0%、「聞いたことはあるが内容は知らない」が20.5%であり、「ジェンダー」については、内容を理解していないにしても多くの人が耳にしている単語であることが分かった。一方で、「DEIGOプラン（第6次沖縄県男女共同参画計画）」については、「内容もよく知っている/少し知っている」と回答した人は4.5%であり、前回調査の6.9%からさらに減少し、多くの沖縄県民に認知されていない現状が浮き彫りになった。

また、「自治体の首長や議員、企業の管理職に女性の参画が少ない理由について」の問い（問30）では、「男性優位」の社会の仕組みや制度がある」と回答した人の割合が54.4%で半数以上を占めた。前回調査と比較すると、35.5%から1.5倍増加した。次いで、「女性の能力発揮のチャンスが男性と同じように与えられていない」（40.7%）、「女性の登用に関する認識や理解が足りない」（30.9%）、「男性の方がよいと思っている人が多い」（28.6%）と回答した人がいることから、女性の上位職登用を阻む原因に、「男性優位な仕組み」を指摘する声が多いことが浮き彫りになった。本調査の「仕事について」の設問でも、職場で男性優位と感じている人が多いのは「人事配置」であり、上位職登用において男性優位な仕組みを改善しなければ、女性の上位職は増えないことが明らかとなった。また、女性登用が進まない現状に、無意識の認識が生じていることも注意しなければいけない。例えば、「同等の能力があれば女性を優先する」という対応である。一見すると、男女平等に扱っているように見えるが、この“能力”は果たして男性と女性は同じ環境で、同じ土俵で評価されているのであろうか。家庭では男性が優遇されていると回答する女性が多数を占め、また、家事や育児介護において女性に負担が強いられている現状の中、仕事において女性は男性と同じ時間を確保できているのであろうか。もしかすると女性が男性と同等の能力を示すには、「男性の2倍以上の働きや能力が必要なのではないか」、また、「“ライフ”を犠牲にしなければならないのではないか」ということが懸念される。最近では、男女共同参画推進において、このような背景を考慮することが大切となっており、マジョリティ特権※の理解が求められている。「そもその現状が、男性が能力を十分発揮できるように整えられた男性優遇の環境であり、女性にとっては不利な環境である」ということに男性が気付く必要があるという意識である。男女共同参画においてはマジョリティは男性であり、このマジョリティ特権を男性が認識していくことで、マイノリティである女性の環境が改善されていくというものである。

「男女共同参画社会の実現のために行政が推進すべきこと」の問い（問32）では、「育児や介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」、「保育の施設やサービス、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」と答えた人の割合が50%以上を占めた。そして、この回答は男性よりも女性の方が高く、より女性が育児や介護における支援を求めている傾向が表れている。行政ができることは、制度設計の見直しもあるが、意識啓発のため、企業への研修制度を充実させることが大切と考える。「沖縄県男女共同参画センター」でいるるで拡充して欲しい事業」では「職業上役に立つ講座やセミナーの開催」と回答

した人が約4割を占め、最も高い割合となった。企業における男女共同参画推進のセミナーを沖縄県が主導して進め、職場におけるマジョリティ特権への理解を深めていくことが必要と考える。

(琉球大学ジェンダー協働推進室 小西 照子)

※多数派に属していることで、知らず知らずのうちに、努力なしに得られる社会的優位性や恩恵のこと。